



つながぎ つむぐ

☆☆☆☆☆☆☆☆ 「えべつ型コミュニティ・スクール」

令和5年2月21日
第14号
江別市教育委員会
総務課・学校教育課

進学後の自分を意識して…2回目の部活動体験

大麻東中学校区(大麻東中・大麻東小・大麻泉小)

大麻東中学校区は7月の部活動体験に続き、12月26日(月)、27日(火)に今年度2回目の部活動体験を実施しました。

中学校入学まで約3ヶ月となり、子どもたちにとっては、1回目よりも部活動に参加している進学後の自分の姿を意識して参加していたようです。また、今回は冬期間の実施のため、外で行う部活動については、屋内での練習を体験することができました。部活動体験の機会が複数あることで、中学校の部活動での「なりたい自分」を選択・決定していくことがより容易になります。

実際の活動では、互いに始めと終わりの挨拶をしたり、中学生が小学生に優しく教えてあげたり、小学生が先輩の活動の様子を食い入るように見たりする場面が見られました。部活動体験を通して自然な形で小中の異学年交流が図られ、小学校6年生の目的意識の醸成や中1ギャップの緩和、中学生の自己肯定感・自己有用感の高揚につながっています。



野球部



テニス部



バドミントン部



吹奏楽部

優しい先輩…冬休みの中学生による小学生学習サポート

江陽中学校区(江陽中・江別太小・豊幌小)

12月26日(月)に江別太小と豊幌小の冬休み学習会が行われ、江陽中の生徒が自分の出身小学校で学習サポートボランティアとして活躍しました。

どちらの小学校でも、中学生が低学年の教室・会場に入り、担任の先生の指示を受けて、小学生の様子を見ながら学習の支援を上手に行っていました。

中学生のお兄さん、お姉さんが、優しく丁寧に質問に答えたり、ヒントを与えてくれたりするので、小学生の子



江別太小で学習サポートをする江陽中の生徒



豊幌小で学習サポートをする江陽中の生徒

どもたちは安心して学習に向かうことができました。

江陽中学校区では、夏休み中も3日間、中学生による学習サポートを行っており、この取組は中学生にとっては、人の役に立つ経験となり、自己肯定感や自己有用感を高めるよい機会となっています。また、小学校の先生の仕事を知るキャリア教育の場面ともなります。小学生と中学生の交流の様子が微笑ましく、温かい雰囲気が教室や会場内を包んでいました。

「共生」～SDGsの視点とともに(合同学習・系統的な指導) 第二中学校区 (中1ギャップ問題未然防止事業第2回運営協議会)

1月23日(月)に第二中学校区の今年度3回目の中学校登校が行われました。第二中学校区では、小学校6年生の子どもたちが中学校生活に徐々に慣れていくようにと考え、5月、8月、1月の3回にわたって中学校登校を行い、少しずつ在校時間を増やして中学校の先生の授業や合同授業を受けたり、給食の喫食をしたり等、多様な体験ができるように工夫しています。

3回目も朝から直接中学校に登校し、2校時に総合的な学習の時間の小中合同授業、4校時には2回目に続いて中学校の先生による音楽の授業を体験しました。

特に、総合的な学習の時間は、「SDGsについて調べたことを発表しよう」という学習課題で進められ、小学校6年生と中学校1年生が協働しながら学んでいくものでした。

第二小と第二中では、2年前から「生活科・総合的な学習の時間」の総括テーマに『「共生」～SDGsの視点とともに～』を位置づけ、9年間を見通した「系統的な指導」を行っています。小学校では、自分たちにとって身近なことから学習をスタートし、歴史や伝統、文化、国際理解に関わることを学び、中学校では、江別市とSDGsのつながりや江別市の魅力、未来に向けた持続可能なまちづくり等について学習するように教育課程を編成しています。各教科で身につけた知識や技能を生かしたり、課題を発見してその解決につながる考えを導き出したり、まとめたことを表現したりする等、児童生徒の発達段階を踏まえて系統的に資質・能力を育成していくように学習活動を展開していきます。

今回の授業では、初めに、小学校6年生が「SDGs 17の目標から自分が取り組みたいと思う目標」について調べたことを中学生に対してプレゼンテーションを行いました。その後、中学生からアドバイスをもらうなどして内容の改善を図り、修正したプレゼンテーションを再度少人数グループの中で発表し合いました。授業の流れが「主体的・対話的で深い学び」となるように組み立てられていました。

当日は、「中1ギャップ問題未然防止事業」の第2回運営協議会も並行して行われ、第二小、第二中の先生方の他に、北海道教育庁石狩教育局教育支援課の指導主事や江別市教育委員会教育支援課の職員、市内の他の7つの中学校区の先生方が授業を参観しました。その後の運営協議会の研究協議では、「小学生と中学生が学習内容を交流したり、協働的に学んだりすることによって、中学校生活への不安を軽減しスムーズな進学につなげられること」、「中学生が学んできた知識や技能をもとに小学生に適切なアドバイスを行っていく活動を通して、自己肯定感や自己有用感を高められること」等が成果としてあげられました。

「中1ギャップ問題未然防止事業」は北海道教育委員会から3年間の指定を受けて各種の取組を進めてきました。今回の授業実践のような「系統的な指導」や、学習・生活規律スタンダードによる「一貫した指導」、中学校登校・合同授業・部活動体験や学力・体力・不登校・登校しぶり等に関する共通理解を図る研修会の実施等の「相乗的・補完的な指導」の実践を進めていくことで、中1ギャップの緩和にもつなげています。



中学生からのアドバイス
(総合的な学習の時間)



2回目の中学校での音楽授業



小学校6年生の発表